

グローバル・カフェ×留学生センター共催「ブルネイ・ダルサラーム国イベント」を開催しました

5月29日(水)、留学生センターとの共催で「ブルネイ・ダルサラーム国イベント」を開催しました。さぬきプログラムに参加しているAzyan(以下、アズヤン)さん、Danish(以下、ダニシュ)さん、Hazim(以下、ハジム)さん、Trisyia(以下、トリシャ)さん、Atika(以下、アティカ)さんよりブルネイ・ダルサラーム国(以下、ブルネイ)について紹介していただきました。留学生24名、日本人学生7名、教職員5名の計36名が参加しました。5人は現地で正装として着用する伝統衣装を身に付けて登場し、会場は一気に華やかな雰囲気となりました。

ハジムさんは基本情報として、ブルネイは東南アジアに位置し、北は南シナ海、残りの国境はすべてマレーシアに面していること、面積5,765 km²(三重県とほぼ同じ)、人口約45万人、主に使用される言語は公用語であるマレー語と英語であると話されました。



ハジムさん



Baju Kurung 着用のアティカさん

アティカさんは、女性の伝統的衣装について「Baju Kurung」と「Baju Kebaya」を挙げ、前者は日常着からフォーマルな場まで幅広く使用され、体にフィットしないゆったりとしたデザインで、動きやすさを重視しているのに対して、後者は、体にフィットするデザインで刺繍やレースで華やかに装飾され、結婚式などのフォーマルな行事で使用されることが多いと説明しました。男性の伝統衣装は「Baju Melayu」と呼ばれ、膝丈まで長さがあるシャツ「Baju」、伝統的な柄や織物で装飾された腰に巻く布「Sarong」、伝統的な帽子「Songkok」を紹介しました。これらの伝統衣装はブルネイだけではなく



Baju Kebaya 着用のトリシャさん

マレー文化圏(マレーシア、シンガポール等)でも広く着用されている衣装であるそうです。

ダニシュさんは伝統的な楽器として、竹で作られた管楽器である「Serunai」や小さなゴングが並んだ「Gulingtangan」、手で叩いてタンバリンのように音を出す「Kumpang」等を紹介しました。これらの楽器は結婚式や祝祭などの特別な行事で使用され、演奏者が奏でる音に合わせて、踊りを楽しむことが多いそうで、代々祖父母や両親から演奏方法を教わることで、次の世代へ継承されていく、と話されました。



ダニシュさん



アズヤンさん

アズヤンさんは伝統料理について、サゴヤシのでんぶんから作られたゼリー状の食品「Ambuyat」、白米と辛いチキンカレー「Nasi Katok」（Nasi はマレー語で米）、もち米を練ったものをココナッツミルクと砂糖と一緒に食べる「Kelupis」など写真を交えて紹介されました。ほぼ一年中、街中どこでも見かけることができるので、観光に来た際にはぜひ食べて欲しい！と付け加えました。

トリシャさんは、数あるブルネイの伝統的祭りの中でも、最も重要なものとして「Hari Kebangsaan（ブルネイの独立記念日）」と「Hari Raya Aidilfitri（ラマダン【断食月】の終わりを祝う祭り）」を挙げました。ブルネイの独立記念日は毎年2月23日に制定され、1984年にイギリスから独立したことを盛大に祝います。首都 Bandar Seri Begawan では軍隊、警察、市民団体などが参加する色鮮やかなパレードが行われ、国王（スルタン）による演説が披露されます。街中が国旗やイルミネーションで彩られ、夜には花火も打ち上げられるそうです。後者のラマダン明けを祝う祭りは、朝から多くの国民がモスクに集まり、特別な祈りを捧げます。祈りの後に「オープンハウス（家を開放して訪問客を迎える）」をして、家族、友人、隣人などを招待し、伝統料理を振舞い、招待客へ日頃の感謝の気持ちを伝えることで、互いの絆を深め合います。街では伝統的な音楽やダンスなどのパフォーマンスも行われ、街全体が祝祭ムード一色に染まるそうです。



トリシャさん

終盤には恒例となった Kahoot! を用いたクイズがあり「ブルネイの独立記念日はいつ？」や「ブルネイは君主制である。○か×か？」など10問が出題され、3チームに分かれた参加者が競い合いました。激しい1位争いが続き、大混戦で迎えた最終問題で、2位であったチームが逆転優勝となり、会場は歓声に包まれました。イベント最後にはブルネイの学生から参加者全員に、イベント参加への感謝を

表す手書きのメッセージカードが贈られました。1枚ずつ丁寧に書かれたメッセージを手に笑顔で写真撮影を行い、イベントを終えました。

